

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 3 月 30 日現在

機関番号：
研究種目：奨励研究
研究期間：2020
課題番号：20H00672
研究課題名：初出資料『義太夫知識』の総合的研究
—日本伝統音楽・芸能における近代化の新展開—
研究代表者
多田 英俊 (TADA, Hidetoshi)
京都府立嵯峨野高等学校・教諭、司書教諭
交付決定額（研究期間全体）（直接経費）：410,000 円

研究成果の概要：

『義太夫知識』は、義太夫節稽古の昔からの形態である口伝を否定し、テキストによる講義と実技演習を組み合わせる方式をとっている。これは、師弟間の口伝・稽古しか存在しなかった昭和初年当時として画期的、革命的なことであり、現在国立（文楽）劇場で行われている文楽技芸員養成事業における研修を、その四十年以前に先駆的に行っていたものと言える。

明治期の三味線名人豊沢団平には数々の逸話が残されているが、『義太夫知識』における、三味線の地位を伴奏から主奏楽器へと高め、節付を伝統的な語り重視から描写音楽形式へと転換し、それらによって義太夫節を近代芸術へと変革した、との評価は前代未聞である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

義太夫の勉強会である「芸道会」のテキスト『義太夫知識』は、歌舞伎の竹本=チョボを対象とした教本であり、いわゆる文楽の義太夫節を考察するに際してはこれまで不要と考えられてきた。しかし、今回それがむしろ現代の研修事業の形態を先取りするものであることが判明した。

豊沢団平に関しては、数多くの逸話とともに三味線の大名人であることは共通の認識となっていたが、義太夫節の近代芸術への変革者にとらえている『義太夫知識』の存在が明らかになることで、彼の評価のみならず、伝統芸能としての義太夫節の捉え方にも一大変化をもたらす結果となった。

研究分野：演劇学

キーワード：義太夫節 豊沢団平 近代化

1. 研究の目的

平成30年度科研費学術図書『鴻池幸武文楽批評集成』出版に際し、『義太夫知識』（第一篇、昭和6年）を古書店で偶然入手した。これは、戦前歌舞伎界の六代目大谷友右衛門が主宰した義太夫授業で使用されたテキストだが、NDLやCiNiiを初めとする主要OPACに未収録の新発見書籍であり、著者も担当講師とだけ記され不明であった。この初出資料を詳細に分析するとともに、目次において確認された革新的かつ衝撃的な内容二点—邦楽それも未だ五線譜化されていない義太夫節への西洋音楽理論応用が見られること、明治期三味線名人豊沢団平を義太夫節の近代芸術への変革者にとらえていること—について調査・研究を進めた。

2. 研究成果

義太夫節の稽古は昔から口伝である。それを本書では「義太夫の稽古は余程時代おくれにて」とし、「教える人も確固たる教授法の規定もなく」と否定し、新時代の新教授法を提示した。すなわち、義太夫節の理解と習得を、実習とは別に『義太夫知識』をテキストにして行うということは、現在国立（文楽）劇場で行われている文楽技芸員養成事業における研修—実技の他に講義が設けられている形態—に近い。この事業が始まったのは昭和四十七年であるから、師弟間の口伝・稽古しか存在しなかった昭和初年当時としては画期的、革命的な方式であった。

豊沢団平に関して、東京では伝統破壊者として否定的に見られており、彼を主人公とした映画「浪花女」の公開より十年以前におけるこの積極的評価は、革新的なものであった。

3. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計1件）

- ① 多田 英俊、初出資料『義太夫知識』の構成ならびに内容、演劇学論叢、査読有、第21号、2021、掲載確定

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/theatre/>

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。